

# 「自分の考えをもち、友とともに見方や考え方を高めていくための 新聞活用方法とその効果をさぐる」

指定校 1 年次 伊那市立高遠中学校 間宮 亜武呂

## I 本校の N I E の現状

昨年度は、N I E 実践校指定 1 年目であった。これまでは新聞記事を基に学活等で話をしたり、学習資料として新聞記事を活用したりすることはあったが、指定をうけるまでは特に「N I E」という意識で取り組むことはなかった。新聞の記事のなかには「授業につかいたいな」「これおもしろいかも」という物はいくつもあったが、適時ではなかったり、教材化するのが難しかったりして使うことができなかつた先生達もいた。そこで、指定校になったのを機に「できることからはじめよう」ということで、普段の授業や学校生活に活かして、無理のない実践を行うようにした。

本校は 9 月から 1 2 月の 4 カ月間、8 紙を購読することができた。これらを廊下に並べ生徒がいつでも見られる状態にしたところ、休み時間等に新聞の前に立ち止まって、新聞を見たり新聞を読み比べたりして、新聞に対する興味と読む時間が増えた様子だった。

また、多くの新聞や記事をストックでき、信濃毎日新聞のデータベースを使用できるようになった事で新聞の記事を教材化しやすくなった。

## II N I E 実践のねらい

高遠中学校の学校教育目標「学則得」の源は「高遠の学」にある。阪本天山がその基礎を作り、多くの人材を輩出した高遠藩校である進徳館の学風は、知行合一・思想即行実の学問、「実学を旨」とし、「高遠の学」と称された。そして、進徳館の塾生であった伊澤修二はこれを「学則得」と一言で表した。「学と得は一体であり、知と行は表裏、学は徳である。学んで知りえないことはないという徹底追求の姿勢である」と実学尊重の考えを示している。そこで目指す姿とは「知育、徳育、体育の調和を求め、情操のいよいよ高く深く人間存在を求める。いよいよ高きもの、いよいよ遠きものを仰望する実践の姿」であり、自立(自律)できる人間の育成を目指している。このように、学校教育目標「学則得」は、学んだことを単に知識にとどめておくことなく、実践活動を重ねて自らの体で具現し、より自分らしく生きる高遠の子たちの育成を願いとしている。また高遠の学は、友と意見を交わし合い、互いに教え、学び合い、互いに知識を深めていく「輪講」によって培われていた。そこで本校の研究においては「輪講」につながる「グループ学習」によって、共に学び合い考えを深めあつていく授業を大切に考え、本校の全校研究テーマとしている。

そして今年度から N I E 指定校を受け、全校研究テーマによせて「自分の考えをもち、友とともに見方や考え方を高めて行く」ために、どのように新聞が活用でき、どのような効果が出るかを実践の中から探っていこうと考え、本実践テーマを設定した。

### Ⅲ. 研究の概要〈実践授業から〉

#### この単元で新聞を使用する価値

##### (1) 脳死と臓器移植について、最新の情報を知ることができる。

本校で使用している社会科の教科書・資料集には「自己決定権」という言葉は載っているが、具体的な事例や脳死下での臓器移植についての記述に乏しい。一方、新聞では今年7月から施行されたばかりの改正臓器移植法についての記事と、それに伴う臓器移植の実施についての記事、さらに子ども向けに臓器移植を説明した記事などがあり、最新の正しい情報を手に入れることができる。そこで本単元では新聞を資料として使用した。

##### (2) 中立的な立場から情報を知ることができる。

本単元では、脳死下での臓器移植を推進する立場でもなく、反対する立場でもなく、あくまでも生徒が自分なりの根拠を持って判断ができるということを目指している。そのため、生徒に提示する資料はできるだけ中立的に、もしくは両者の立場の資料を同量で提示することが大切である。脳死移植に関わる資料は臓器移植ネットワークのHP等からも入手できるが、臓器移植ネットワークはあくまでも臓器移植を推進する立場であるため、やや情報に偏りがあると感じた。一方、新聞記事は事実をもとに書かれており、またそれぞれの立場から書かれている記事があり、中立的な資料として扱う事が可能であると考えた。

##### (3) 実際に臓器移植を受けた人、脳死状態になった家族と向き合った人の声と考え、様子を知ることができる。(中心資料として使用)

本単元で中心資料として扱った2つの記事『脳死移植経て母に—2010/10/14 信毎』『動かない娘と過ごした時間—2010/8/1 朝日』には、脳死移植に直接かかわった人の姿・声・考え方が掲載されている。生徒は脳死と臓器移植についてそのような具体的な様子を知ることができるので、その場の状況を理解したりやその人の思いに共感したりしやすいと考えた。そしてそれが生徒の考えを深めるために有効な資料になりえるのではないかと思い、この新聞記事を中心資料とした。それぞれの新聞記事の内容と生徒に気付いてほしい事実・考え方は以下の表の通りである。

記事	脳死移植経て母に	動かない娘と過ごした時間
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臓器提供を過去に受けた40代の女性が子供を出産した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳死状態になった1歳の娘と6カ月一緒に暮らした母の想いをつづった手記</li> </ul>
生徒に気付いてほしい事実・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>臓器移植により、女性の命が救われただけでなく新たな命の誕生につながった。</u></li> <li>・移植を受けなければこの新しい命が誕生しなかった。</li> <li>・<u>臓器移植により、出産ができるほど体が回復し、ごく一般的な生活ができるようになる。</u></li> <li>・出産ができ、うれしそうに語る女性の姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・突然娘が脳死状態になってしまった母のショックと混乱している状態で冷静な判断ができるかという不安。</li> <li>・脳死状態の娘が生きようとしているように見える姿。</li> <li>・脳死下での移植が広まった時、最後まで命をあきらめずに治療がおこなわれるのかという懸念。</li> <li>・<u>どんな命も本当に最後まで支えてくれる社会と医療への願い。</u></li> <li>・<u>脳死状態になった本人ではなく、それを見守る家族の気持ち。</u></li> </ul>

## IV. 実践授業の内容

1. 単元名 社会科公民分野 大単元『人権と共生社会』

小単元「自己決定権と臓器移植」

### 2. 単元設定の理由

本校の生徒は、社会への関心が高く、ニュースや新聞を見て世の中の動きをとらえようとする生徒が多い。また、公民分野の授業へも積極的に取り組んでおり、大単元「人権と共生社会」の学習では、憲法で保障されている様々な権利を学習しながら、現在も残る差別の問題や権利と権利が対立する問題について、友と話し合いを行う中で自分の考えを深めてきた。しかし、生徒たちは「こうなるとよいと思う」や「こうなってほしい」などと感想を述べる事が多く、これらの問題を社会での出来事としてとらえており、自分の問題としてとらえている生徒は少ない。また、自分自身についての考えとなると、自分の考えに自信を持たず、また安易に答えを出してしまいやすい傾向がある。

そこで本単元では、大単元「人権と共生社会」のまとめとして、自己決定権と臓器移植を扱い、学習問題「自分が脳死状態になった時、臓器提供をしたいかどうか考えよう」について考えることで、人権を自分自身の権利であることを自覚し、自己の判断の大切さについてしっかりと考えさせたい。また、改正臓器移植について扱い、本人の判断が不明の場合は家族が臓器移植の決定をしなければならないことを学ぶことを通して、自己の判断の責任に気付かせたいと考えた。

そのために、本単元では二度の小グループでの話し合いを設定する。まずは同じ立場の友と小グループを組み、話し合う事で自分の意見に自信を持ち、さらに自分とは異なる立場の友と小グループを組み、話し合う事でより多面的・多角的に自分の考えを深めることができるだろうと考える。

さらに、本単元では主教材として新聞記事を使用する。新聞記事を扱う理由は、一つは改正臓器移植法が本年7月より施行され、現在は今まで以上のペースで脳死下での臓器移植が行われており、新聞記事が最もタイムリーに情報を発信しており、最新の情報を得ることができるからである。もう一つは、実際に臓器移植に関わる様々な立場の人の声が載っており、生徒がその場の状況を理解したり、その人の思いを理解しやすいからである。生徒は新聞記事をもとに、脳死と臓器移植についてより正しく理解し、それらに関わる人の声を聞くことで自分の考えをさらに深めることができるだろうと考える。

以上のような手だてによって、生徒が人権を自分自身のものであることを自覚し、自己の判断の大切さと、その責任を理解するとともに、より多面的・多角的な視点から自己の判断ができるようになることを願い、本単元を設定した。

### 3. 本時案

#### (1) 主眼

自己決定権について学習し、自分が脳死状態になった時に臓器提供をしたいかどうか考えた生徒が、自分とは異なる意見を持つ友と意見交換をし、さらに新聞記事から臓器移植を経て出産した女性の姿や、脳死状態になった娘と半年間過ごした女性の考えに触れ、自分の意見を練り直すことを通して、より多面的・多角的な視点から脳死下での臓器移植についての自分の考えを深めることができ、さらに改正臓器移植法による家族の負担を知ることで、自己決定権の責任について理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	支援・評価・備考	時間	資料		
導入	1. 本時の学習内容を確認する。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習問題】 自分が脳死状態になった時、臓器提供をしたいかどうか考えよう。</p> </div>	○学習問題を確認し、学習カードで前時にまとめた自分の考えを振り返らせる。	2	学習カード		
展開	2. 自分と異なる考えを持つ友と小グループを組み、意見交換を行う。	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>提供したい</p> <p>ア. 臓器移植はよいことだと思う。</p> <p>イ. 自分が死んでも他の人の中で生きることができる。</p> <p>ウ. 自分一人の命で大勢を助けることができる。</p> <p>エ. 脳死は法律で死とされている。それなら臓器移植をしないと助からない人を助けない。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p>提供したくない</p> <p>A. 自分の体の一部がなくなるのは嫌だ。</p> <p>B. 脳死でももしかしたら助かるかもしれない。</p> <p>C. 人の命よりも自分の命を大切にして、最後まで治療を受けたい。</p> <p>D. 脳死と言っても体は温かいし、心臓は動いている。生きているのと変わらないと思う。</p> </td> </tr> </table>	<p>提供したい</p> <p>ア. 臓器移植はよいことだと思う。</p> <p>イ. 自分が死んでも他の人の中で生きることができる。</p> <p>ウ. 自分一人の命で大勢を助けることができる。</p> <p>エ. 脳死は法律で死とされている。それなら臓器移植をしないと助からない人を助けない。</p>	<p>提供したくない</p> <p>A. 自分の体の一部がなくなるのは嫌だ。</p> <p>B. 脳死でももしかしたら助かるかもしれない。</p> <p>C. 人の命よりも自分の命を大切にして、最後まで治療を受けたい。</p> <p>D. 脳死と言っても体は温かいし、心臓は動いている。生きているのと変わらないと思う。</p>	<p>○「提供したい」「提供したくない」「迷っている」のそれぞれの考えを持つ生徒が入る3～4人の小グループを組み、話し合わせる。</p> <p>○小グループでの話し合いでは、まず全員に意見を出させ、その後それぞれの意見について話し合うように指示する。</p> <p>○自分の意見を発表する際には、自分の意見の根拠となる事実をできるだけ明確に言うように指示する。</p> <p>○話し合いの中で自分の意見を変えてもよいと伝える。</p>	10	
	<p>提供したい</p> <p>ア. 臓器移植はよいことだと思う。</p> <p>イ. 自分が死んでも他の人の中で生きることができる。</p> <p>ウ. 自分一人の命で大勢を助けることができる。</p> <p>エ. 脳死は法律で死とされている。それなら臓器移植をしないと助からない人を助けない。</p>	<p>提供したくない</p> <p>A. 自分の体の一部がなくなるのは嫌だ。</p> <p>B. 脳死でももしかしたら助かるかもしれない。</p> <p>C. 人の命よりも自分の命を大切にして、最後まで治療を受けたい。</p> <p>D. 脳死と言っても体は温かいし、心臓は動いている。生きているのと変わらないと思う。</p>					
3. 新聞資料を読み、自分の考えを練り直す。	<p>&lt;臓器移植を受けた女性が出産を見て&gt;</p> <p>・臓器移植を受けた人が出産したなんてすごい。臓器移植により、この母親だけでなく、その子どもという2つの命が生きていくことができるようになった。</p>	<p>○グループでの話し合いを止め、席を戻す。その後、新聞資料を配布し読ませる。</p> <p>○全員が一通り読み終えたところで大まかな内容を全体で確認する。</p> <p>○内容の確認後、自分の考えをさーに見返す時間を取る。</p>	10	新聞資料『脳死移植経て母に』信毎 10/10/14 『動かない娘と過ごした日々』朝日 10/8/1			
	4. 再度グループを組み、もう一度考えたことを話し合う。	<p>&lt;動けなくなった娘と過ごした日々を見て&gt;</p> <p>・このお母さんのように、親の気持ちとしては、娘が動けなくなっても最後まで治療を続けたいという思いがあるだろう。</p>	<p>○もう一度グループを組み、新聞を読んで考えたことを中心に、再度話し合いを行うよう指示する。</p>	5			

<p>展 開</p>	<p>5. 友の意見や資料を見て、自分の考えを再度まとめ、全体で考えを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の親はどう思うだろうか。</li> <li>オ. 臓器移植はよいことだと思うし、自分は提供したいと思う。でも、自分の家族の気持ちなどを考えると、簡単に決められない。家族と相談してみたいと思う。</li> <li>エ. 脳死を死とすることに疑問は残るけど、臓器移植の大切さがよくわかった。まだ迷っているけど、今後も考えていきたい。</li> <li>・脳死下での臓器提供のよいところと、課題がよく分かった。課題が少しでもなくなっていき、少しでも多くの人が助かるようになればいいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記事を読んだり、話し合いをしたりしての現時点での自分の考えをまとめさせる。</li> <li>○意見が変わった生徒やより考えが深まった生徒を指名し、全体の前で発表させる。また、「家族と話し合いたい」や「今後も考えていきたい」という考えを持った生徒を指名し、現時点で答えを出すのではなく、今後の課題として考えていってほしいと伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">       友の意見や新聞資料を読み、より多面的・多角的な視点から学習問題に対する判断をしているか学習カードや発言で評価する。     </div>	<p>10</p>	
<p>ま と め</p>	<p>6. 資料から改正臓器移植法と家族の負担について知り、自己の意思決定が大切なことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし自分の家族が脳死状態になっても、本人の意思が分からなければ、私は決めることができないと思う。どうしたいのかという意思表示をしておくことは大切だと思う。</li> <li>・自分は移植するかしないかをとても迷ったけど、その負担を家族にまかせてしまうのは、とても家族を苦しませてしまうと思う。自己決定権は自分の権利であるが、やらなくてはならない義務のようでもあると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新聞資料をもとに、改正臓器移植法により、本人の意思が不明な場合は家族が臓器移植の決定をしなければならない事を理解させる。</li> <li>○「自分の家族が脳死状態になったら、どうしますか?」「もし自分が脳死状態になった時、臓器移植の意思表示をしてなかったら、自分の家族はどうなる?」という2つの発問を行い、家族承諾の際の家族の負担について考え、自己決定権に基づく自己判断の責任に気付かせる。</li> <li>○本日の授業を通して考えたことを学習カードに記入させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">       本人の意思が不明な場合には家族が重大な負担を背負うことに気づき、自己決定の責任を理解することができたか、学習カードで評価する。     </div>	<p>13</p>	<p>新聞資料</p>

#### 4. 授業の実際（新聞記事を読むことによる生徒の考えの変化を中心に）

##### （1）N生の姿から

###### ①学習問題に対し、自分の立場は明確にできたものの、考えの根拠が見つからないN生の姿

N生は脳死と臓器移植とは何かについて新聞記事を用いて学習した後、学習問題について以下のような考えを記述した。

学習問題：自分が脳死状態になった時、臓器提供をしたいかどうか考えよう。

N生の考え・・・臓器提供をしたくない。  
気分的な問題だけど、やっぱり自分の臓器が移植されるのは嫌だ。仮に移植したとしても（相手が）助かる確率が100%じゃないので、なおさら嫌だ。必要としている人には申し訳ないけど、自分の臓器をあげることはできない。脳死だともう動けないけど、体の一部が動いているんだから、死亡とみなすのは違うと思う。

上記の記述に見られるように、N生は臓器提供についてはっきりと「嫌だ」という言葉を使用しており、とにかく自分は嫌だという臓器提供への抵抗感をはっきりと示していた。しかし、「気分的な問題だけど」という記述にもあるように、なぜ嫌なのかという根拠がはっきりなく、教師の「なんで嫌なのかな」という問いかけにも「うーん、何か嫌なんですよ」と答えている。N生は、資料などにもよく目を通しており、自分なりの根拠を探していたが、何かうまく説明できない・根拠が見つからないと言った様子であった。

###### ②自分とは異なる立場の友と意見交換をした後、中心資料の新聞記事を読み入るようにつめるN生の姿

N生は臓器提供をしたいと考えるC生と、判断に迷っているM生と小グループを組み、話し合いを行った。このグループでは自分の意見を順番に3回ほど発表していたが、発言が絡み合う場面はほとんどなかった。しかしお互いの意見をよく聞いており、3人ともうなずいたり、「うーん」といって考えこんだりする姿が何度か見られた。話し合いの後半に教師がN生に声をかけると「うーん、M生の言う事はよくわかるけど、やっぱり嫌だ」と、まだ自分の考えがすっきりしていない様子であった。

その後、教師は話し合いを中断させ、中心資料である新聞記事を配布した。N生は新聞記事を配った瞬間から新聞記事をじっと見つめ、学習カードに一気に以下の記述をした。

臓器移植経て母にを読んで	動かない娘と過ごした日々を読んで
臓器移植をされて、出産するなんてすごいと思った。それほど移植すれば本人は回復できるのだと思った。	やはり親は子供が脳死の状態でも生きていて欲しいんだと思う。臓器提供をすることで失う命がある。どんな命でも最後まで支えることが大事。

### ③自分の意見の根拠を新聞から見つけ、自信を持って自分の考えを記述した N 生の姿

新聞記事を読んで感じた事を小グループで話し合った後、教師は「本日のまとめとして、現段階での最終判断をしよう」と発問した。N 生は迷うことなく自分の最終判断を描いていたため、教師が声をかけると、N 生は新聞記事『動かない娘と過ごした日々』を指差し「これでやっと決まりました」と言い、笑顔を見せた。N 生の最終判断と、この日の感想は次の通りである。

#### 学習問題に対して、現時点での最終判断をしよう

N 生の考え・・・臓器提供をしたくない。

臓器提供を受けて出産することができたのもすごいと思ったが、子どもがなくなるまで家で一緒に親と過ごしたという記事の方が印象に残った。やはり親は脳死状態でも子どもに生きてほしいと思うし、どんな命でも最後まで支えるのが大切なんだと思う。気分的とかそういう浅はかな理由で最初は選択したが、やはりこの記事を読んで臓器提供はしたくないと改めて思った。

#### 今回の授業を振り返って考えたこと

班で話し合ったりして提供したい人たちの意見をたくさん聞けたけど、意見は変わらなかったし、新聞記事を2つ見て、「動かない娘～」の記事に「どんな命でも最後まで支える」というのが、すごく自分の意見を確信にさせてくれた。みんなすごく自分の思うことを素直に言い、すばらしい話し合いになった。

N 生は「臓器提供はしたくない」という考えは変わっていないものの、その根拠となる部分が明らかに変化している。N 生は2つの新聞記事を読んで、それぞれの立場の考え方を理解したうえで、「動かない娘と過ごした日々」の記事が自分の考えにぴったりはまり、これが自分の求めていたものだった（確信にさせてくれた）と述べている。また、N 生の考えは、以前は「嫌だ」という自分の視点からの考えだけであったが、最終判断では「親は」という別の視点からの考え方を追加しており、これは「動かない娘と過ごした日々」の記事の母の思いから、自分の親の気持ちや自分が親だったらという気持ちに気付いたからであると思われる。

以上の N 生の考えの変化から、中心資料としての新聞記事が N 生の考え方を深めるのには大変有効であったと思われる。また、何よりも N 生が新聞記事によって以前は「浅はか」だった自分の考えが深まったことを実感しており、素晴らしい話し合いになったと授業を振り返っている姿が一番の成果であった。

### ④単元の終末場面で自己決定することの大切さを実感した N 生の姿

本時の授業が伸びてしまったため、本時のまとめとして行う予定であった改正臓器移植法について、単元を1時間延長し、次の時間で扱った。ここでは新聞資料を中心に改正臓器移植法の内容と、実際に本人の意思が不明であり家族の決断により臓器移植が行われたという記事について学習した。授業の終末に教師は「臓器移植カードを持ち、自分で意思表示をするべきだろうか」と発問したところ、N 生は次のように記述した。

## 臓器提供カードを持ち、自分で意思表示をするべきだろうか

### N生の考え

提供するかしらないかは自分で決めた方がよいと思った。家族も決断するのは大変だと思う。

単元のはじめには、自分の意見の根拠が見つからず困っていたN生であったが、単元を通して新聞記事を読み、様々な立場の人の思いを知ることによって、N生は自分の家族に思いを寄せながらはっきりとした判断ができるようになった。また、N生は「自分で決めた方がよい」として自己決定の大切さに気付くことができた。このように、N生が単元で目指す姿に近づくことができたのは、新聞記事があったからだと言える。

## V. 研究のまとめ

### 1. 実践授業の成果

- (1) 脳死と臓器移植を扱ったことにより、生徒は自分の命と向き合い、自分の権利に目を向け、真剣に自分はどうしたいかを考えることができた。そして、脳死と臓器移植を扱う教材として新聞は必要不可欠なものであった。
- (2) 中心資料として臓器移植に肯定的な立場と慎重的な立場の2つの記事を提示することにより、N生のように自分の考えの根拠があいまいだった生徒が、自分の意見を深め、より多面的多角的な視点から判断することができるようになった。新聞記事により、脳死と臓器移植に直接関わった様々な立場の人の意見を生徒が具体的に知ることができたのが特に効果的であった。
- (3) 最新の問題である改正臓器移植法を扱ったことにより、生徒が自己決定することの大切さとその責任について考えることができた。自分で判断をする大切さを知ることにより、生徒は今後様々な問題について自分の判断をしていくことができるのではないかと思われる。

### 2. 残された課題

- (1) 単元を通して、多くの新聞を生徒に読ませたが、その分かかなりの時間を費やしてしまった。新聞が有効な資料であると言える一方、特に読み取りが苦手な生徒にとっては普段使用する資料に比べ、難しいものだったようにも思える。
- (2) 今回の単元では、すべての新聞記事を教師が意図的に生徒に配布し、教師が気付いてほしい価値観に生徒は気付いていった。それは教師の狙い通りの授業であったが、はたしてそれでよかったのかという意見を授業研究会の中でいただいた。今回の授業で「生徒が自分で根拠となり得る資料を探す」という方法も確かにありえたが、時間がかかることや、それによって生徒がどのように意見を深めるかが見えないため、教師はその方法をとらなかった。どちらの方がよかったか分からないが、今後このような方法でやってみるのもよいと思われる。